

国立大学法人お茶の水女子大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって真摯な夢の実現される場として、すべての女性とその年齢・国籍等にかかわらず、個々人の尊厳と権利を保障され、自由に自己の資質能力を開発し、知的欲求の促すままに自己自身の学びを深化させることを目指している。第2期中期目標期間においては、21世紀の社会に必要とされる高度な教養と専門性を備えた女性リーダーを育成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、4学期制の導入のための制度改正や、グローバルに活躍できる女性人材育成のための5年一貫の「グローバル理工学副専攻」の新設等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(機能強化に向けた取組状況)

事務組織、教員組織改革を基盤にした教育研究の改革強化を意図した全学的組織改革(三次元改革)構想をとりまとめ、事務組織改革から着手しているほか、ミッションの再定義に基づいた教員組織改革として、特に理工系の女性リーダー育成の重点化を決定するとともに、年俸制を含む新たな人事給与制度の適用を視野に入れた制度設計を行っている。さらに、監事と学長との定期的意見交換を通して、ガバナンス、コンプライアンスの状況を把握し、それを組織の改革と機能強化に活かしている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 教員(性別不問)の妊娠中・産休明け・育休明け支援、介護・看護の一時支援として、研究・事務等の補助業務に対して謝金による支援を実施するとともに、産休明け・育休明けの支援要件を2年以内から3年以内へ拡充するなど、制度の改正を図ったことにより、制度の利用者が増加している。(平成25年度は延べ15名を支援)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載17事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- (①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- (①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 従来、教員が個別に入力していた教員活動評価、研究者情報の公開、Annual Report、研究紹介集（シーズ集）に係る情報について、一括して入力することができる新システムの導入を決定するとともに、システムの構築に当たり、入力項目を整理したことにより、教員の負担を軽減している。
- 教職員・学生による教育・研究成果の出版を支援する電子出版システム「お茶の水女子大学 E-book サービス」を構築し、電子版を無料で公開したほか、希望者にはオン・デマンド印刷で冊子版を実費で販売しており、既存のシステムを活用して、負担なく教育・研究成果の出版・流通ができることが評価され、平成25年度国立大学図書館協会賞を受賞している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- (①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 災害用マンホールトイレ（5か所）、防災用井戸（4か所）の設置及びソーラー式屋外照明の整備（28か所）等、キャンパス全体の災害対策を強化するとともに、ポケット版（名刺サイズ）の大地震対応マニュアルを作成し、平成26年度からすべての学生・教職員に配付することとしたほか、附属学校も含めた全学的な安否確認システムの導入を決定している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 16 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 留学の促進と質的に高度な学修時間の確保のために、平成 26 年 4 月より 4 学期制(2 学期制と併用)を導入すべく制度改正を行っている。
- 博士課程教育リーディングプログラム『みがかずば』の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダー育成」において、5 年一貫制のグローバル理工学副専攻を開設して PBTS(Project Based Team Study)による新たな教育を開始し、同プログラムの採用教員の約半数を外国人とし、英語のみで学位取得ができるよう教育課程を整備している。
- 全学生を対象に「メンタルヘルス調査」を実施・分析するとともに、「学生相談室連絡会議」を開催し、学生支援関係センター間の連携を強化している。
- 福井県と締結した相互協力協定に基づいて、福井県「未来きらりプログラム」の策定に協力し、女性リーダーの育成のノウハウを提供し、キャリアデザイン論やプレゼンテーション力向上のための講座への講師派遣や紹介を行ったほか、男女共同参画推進事業に関する講義やシンポジウム等へプログラム関係者の聴講を特別枠で受け入れている。